

# 風 (現場) からの

宮田守男



「楽しそうな人」は愛されるを地で行く平田さん、会場の女性を褒めて、褒めて、褒めまくる。

6月中旬、松本市ホテルフエニスタで開催されたカリスマ添乗員からなる地域の魅力カリスマ添乗員が伝える松本の魅力を題した講演会を開催する。

講師は、迅速のカリスマ添乗員として話題の日本旅行西日本営業本部 営業推進事業

部・担当部長の平田進也さんだ。テレビでもおなじみで、驚異的な売り上げを記録するスーパーサラリーマン添乗員。先着300人の募集だが、会場には460人。多くの熱心な女性が会場を埋める。

## 講演会等に積極的に参加して、身近な課題を学ぶ大切さを考えてみませんか

平田さん。

講演会の中で印象に残った話が幾つかあった。人は死を迎えた時、持っているものが「いい思い」か「悪い思い」かによって死を迎える。悪い思いは、普通が大切。お客様の求めるものに添って、色んな色を付けてくれるのが大切。平田さんのツアーは、低価格商品ではない。色んな情報から知る事ができる。現場主義だ。生の声を聴き、次の企画を生み出す。そのために一生懸命尽くす。北地域の観光関係者が、接客現場で一生懸命尽くす、という気持ちで取り組んでいるのだろうか。単なるお金を稼ぐ気持ちだけで営業しなかつた良徳を始めた

を日級農産物として売っていくのも知恵。これからは高齢化社会。介護ツアーや車いす使用者の受け入れを前面に出しての戦略も大切。一番大切な事は企画にお客様目標のニーズの意見をしっかりと。とめどなく話が進み、平田さん。90分間の講演時間を感心させない話術。1970年代にスキーツアーのスタッフとして長野県内を知る平田さんの講話を、また興なった福原から聞いてみたいと感じた1日でもあった。

今回の募集予約する会場も多いようだ。添乗員の年間売り上げは、1億から億と書かれているが、年間約8億円稼げる驚異的な知識を羊ひたいと謙和を華中で聞く。既に、講師の術中に見事にハマって

いる自分に気づく。いつも添乗で心掛けていくことは、「なごませる」「人をどうとらえる」「人をどうとらえる」「人をどうとらえる」。「人をどうとらえる」。「人をどうとらえる」。「人をどうとらえる」。

白鳥村森上

笑顔一杯で話す

「楽しそうな人」は愛されるを地で行く平田さん、会場の女性を褒めて、褒めて、褒めまくる。

「楽しそうな人」は愛されるを地で行く平田さん、会場の女性を褒めて、褒めて、褒めまくる。